

令和7年度 人文学類文化講演会

講演題目

# 新疆から見る満洲語の世界 ～言語と歴史の交差点～

講師

承志 (Kicengge) 先生

追手門学院大学 文学部・教授

主要著書

『ダイチン・グルンとその時代：帝国の形成と八旗社会』（名古屋大学出版会、2009）

満洲語（マンジュ語）は清朝（ダイチン・グルン）で広く用いられた言語です。  
新疆ご出身の清朝史研究者の先生に満洲語とその研究の魅力をお話しいたします。

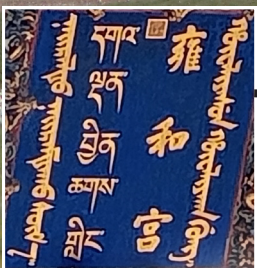
※人文学類・史学主専攻は満洲語を学べる世界的にも珍しい専攻です。

日時：11月3日（月） 10時00分～11時30分

場所：1D201教室（第一エリア）



※ どなたでもご自由にご参加ください。途中入退室はご遠慮ください。



北京のチベット仏教寺院の扁額（右から満洲語・漢語・チベット語・モンゴル語）

問い合わせ先：人文社会系・岩田啓介 (iwata.keisuke.ga@u.tsukuba.ac.jp)